

大田原ボール

大田原ボールとは、楕円形のボール(フラバール)を使用し、相手コートから返球された1打目のみ「コートにワンバウンドさせてからレシーブ」という変則的な楽しいニュースポーツです。

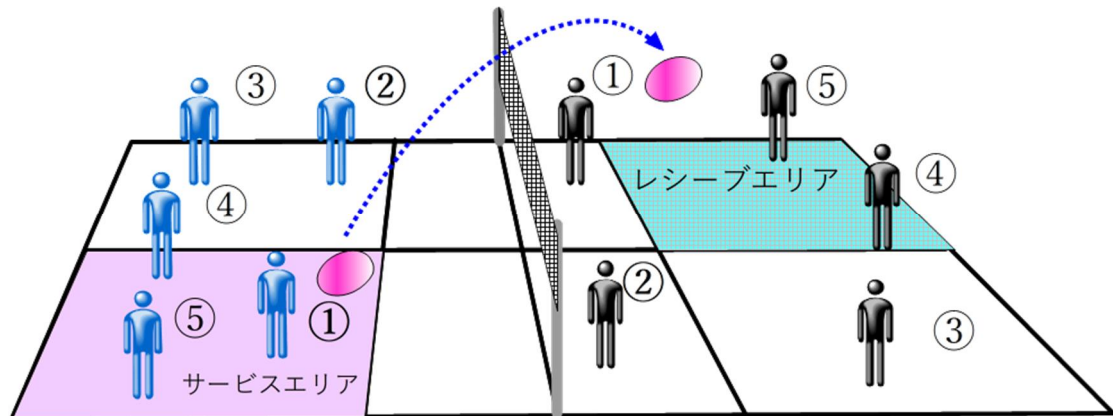
(大田原ボールは”さいかつボール”をアレンジしたニュースポーツです)

ボールの形状から、ワンバウンドしたボールの行方が予想できず思いのよらないプレーに驚きや笑いが絶えません。

■ 用具・コート

1. 変形ボール(フラバール)
2. バドミントン用ネットと支柱
3. バドミントンコート(ダブルス)を使用します。
4. ネットの高さは180cmとする。

【参照図】



■ ルール

- 5人対5人のラリーポイント制[サーブ権の有無に関係なく加点される]とし、1セット15点先取で勝ちとする。(デュースはなしとする)
- チームキャプテンは、ジャンケンなどによりコートまたはサービスの権利を選択する。
- サービス時の両チームのプレーヤー・ポジションは、参照図のように[前衛2名・後衛3名]とする。
- インプレー中は、両チームとも自陣コートのどこでプレーしてもよい。
- サービスは1本で、(参照図の左側コート)前衛の右側のプレーヤー①がサービスエリアからアンダーサーブで相手コートのレシーブエリアに打つこと。
サービスボールがレシーブエリアに落下しなかった時点でサイドアウトとなる。
※アンダーサーブとは腕を真下から真上に挙げる動作で打つサーブ。
※「上・横・斜め」からの打ち方は反則とする。
- サービスで打たれたボールがネットに触れた場合は、サイドアウトとなる。
※サイドアウトとはサーブレシーブ側のチームが得点し、サービス権を得てローテーションすること。
- 相手チームから打たれた”1打目はワンバウンド”させてから2打または3打で返球する。
※ラリー中の1打目もワンバウンドさせてからプレーする。

■ 主な反則

1. 相手コートより返球された1打目のワンバウンドしたボールを直接相手コートに返球した場合。
2. ボールがプレイヤーの足〔膝下〕に触れた場合。
3. 意図的でないタッチネットや身体の一部が相手コート側（センターラインを越えて）に入ってもOKとするが、センターラインを越えた状態で相手プレイヤーへのプレーの妨げや、相手プレイヤーとの接触があった場合は反則とする。
4. ボールアウトは、ボールがコート外の床面または物体に触れた場合とする。
※ ボールの一部が上から見てライン上にかかっていたらインとする。ボールの接地面とは異なるので注意。
5. インプレー中にボールがネットの下を通過した場合。
6. 相手コートへ3打以内(1打は反則)で返球できなかった場合。
7. 同一プレイヤーが2度連続してボールに触れた場合。
※ただし、ボールの形状がユニークなため簡易なドリブルはOKとする
8. ネットの真上より相手コート側でボールに触れた場合。（オーバーネット）
9. サービス時にコートポジションの位置関係が明らかに違う場合。（主審はサービスチームを、副審はレシーブチームのポジションを確認する）

■ ローテーションとプレイヤーの交代

1. サイドアウトを取ったチームは、ローテーション（時計回り）を行います。
2. プレイヤーの交代は、監督またはキャプテンが審判に申告する。
3. プレイヤーの交代回数は制限無しとする。
4. プレイヤーの交代するタイミングは、レシーブ側のチームとする。
（サービスするチームはプレイヤーの交代はできません）

■ 応用編

- バドミントンの用具やコートラインが無い場合、「バレーボールの用具とコート」を使用して競技できます。
その場合、アタックラインの中央地点からエンドラインの中央地点までラインテープを張って下さい。（サービスエリア・レシーブエリアの設定）
- バレーボールコートの場合はプレイヤーの人数を増やして（例えば9人対9人）競技するのも面白いです。